

母子生活支援施設における支援の源流を辿る

—神戸婦人同情会母子の家と秋田婦人ホームに関する文献研究を通して—

龍谷大学短期大学部 塚 恵 (会員番号 7320)

[キーワード] 母子寮, 母子生活支援施設, 母子福祉問題

1. 研究目的

本報告の目的は、二つある。一つ目は、神戸婦人同情会母子の家と秋田婦人ホームという二つの母子寮が、創設されるに至った契機とそこでの支援内容を明らかにすることである。二つ目は、上記の母子寮における支援内容と今日の母子生活支援施設における支援内容において、共通するものがあるのか否かを確認することである。

母子生活支援施設は、児童福祉法第38条に基づく児童福祉施設である。1997年の児童福祉法改正まで、母子寮という名称であった。母子生活支援施設が児童福祉法に基づく児童福祉施設であること、また、戦後の母子世帯対策として施設数が大幅に増加したことから、1947年の児童福祉法制定より母子生活支援施設の歴史が始まったと思われるかもしれない。だが、母子生活支援施設の歴史は、大正時代にまで遡る。

本報告で取り上げるのは、1921(大正10)年に城ノブによって創設された神戸婦人同情会母子の家と1932(昭和7)年に早川かいによって創設された秋田婦人ホームという、児童福祉法制定以前の、法的根拠や措置費による収入のない時代に、母子世帯への支援を始めた施設である。

本報告では、この二つの母子寮が創設された背景を明らかにすることで、城ノブと早川かいが、いかなる母子福祉問題を発見し、どのような支援内容を講じていたのかを究明する。さらには、これらの母子寮での支援内容と、今日の母子生活支援施設での支援内容との間の共通点を確認することにより、母子福祉問題の緩和、解決にとって必要不可欠な支援内容について探してみたい。

2. 研究の視点および方法

福島(2000)、副田(1985)、林(1992)、武藤(2020)らによる先行研究が着目してこなかった大正時代から昭和初期に創られた母子寮に焦点をあてる。文献研究を通して創設の契機と支援内容を検討し、今日の母子生活支援施設との共通点を提示する。

3. 倫理的配慮

本報告は一般社団法人日本社会福祉学会の「研究倫理規程」, 「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」を遵守している。また、本報告に関連して開示すべきCOIはない。

4. 研究結果

神戸婦人同情会母子の家の設立の契機は、公娼廃止運動に携わっていた創設者・城ノブの、女性の抱える問題への関心から始まっていた。城は神戸婦人同情会を立ち上げ、多発する母子心中に心を痛め、相談を受け付けるなかで、1921(大正10)年に神戸婦人同情会母子の家を創った。つまり施設創設の背景には、女性の身売り、母子心中といった問題があった。

秋田婦人ホームの設立の契機は、早川かいが日本基督教矯風会秋田支部の会長として公娼廃止運動に取り組むなか、「自由廃業の女性を保護し、生活を訓練してその更生をはかる必要性を感じ、「自宅を開放して自由廃業の女性らを収容し」、「人事・身上の相談に応じ」「職業を紹介」してきたが(秋田婦人ホーム 1975:55)、「限界を感じ」「保護施設をつくらねばならぬ」と考えたからである(田中 1992:20-21)。

神戸婦人同情会母子の家による支援内容は、住まいの提供や保育、就労に必要な技術の訓練であった(神戸婦人同情会 1935:22-23)。また、秋田婦人ホームの支援内容は、住まいや食事の提供、保育、就労に必要な技術の訓練、食料品の廉売所の設置であった(秋田婦人ホーム 1975:59-65)。二つの母子寮にみるこれらの支援内容は、今日の母子生活支援施設において実践されている乳幼児保育、学童保育、食材提供、就労支援と共通するものが見受けられる。

## 5. 考察

本報告の研究結果からは、母子福祉問題への対策として住まいの確保、就労支援、子どもの保育が必須であり、それらを整えて母子世帯に提供してきたのが、母子寮あるいは今日の母子生活支援施設であったことが示唆される。しかしながら、大正時代から昭和初期にかけて設立された母子寮と今日の母子生活支援施設とでは、住まいの確保、就労支援、子どもの保育といった支援内容の項目は共通していても、その内実にはかなりの相違があると考えられる。今後は、さらなる文献収集と研究により、母子寮と母子生活支援施設の支援内容の相違点を探究していく必要がある。

### 参考文献

- 秋田婦人ホーム(1975)『火の柱—秋田婦人ホーム四十年の歩み』文天閣。  
 福島三重子(2000)『母子生活支援施設のあゆみ 母子寮の歴史を辿る』せせらぎ出版。  
 林千代(1992)『母子寮の戦後史 もう一つの女たちの暮らし』ドメス出版。  
 神戸婦人同情会(1935)『神戸婦人同情会 20年史』。  
 武藤敦士(2020)『母子生活支援施設の現状と課題』みらい。  
 副田あけみ(1985)「敗戦直後における母子寮」『人文学報. 社会福祉学 1』(179), 195-214。  
 田中信子(1992)「早川かいの残したもの」『婦人新報』No1096。

\*本報告は、JSPS 科研費 23K12652 の助成を受けて実施した研究成果の一部である。